

アベイラスの滑り抵抗値(CSR)の測定試験結果

(東京工業大学床性能研究会)

評価状況	アベイラス ハードタイプ	アベイラス ソフトタイプ	他社製ビニル系 床シートA	他社製ビニル系 床シートB
乾燥状態	0.858	0.901	0.829	0.865
水を散布	0.771	0.811	0.735	0.799
水ダスト	0.585	0.566	0.544	0.536
油を散布	0.525	0.521	0.320	0.294
石鹸散布	0.697	0.726	0.341	0.312

事故が多発

急速な高齢社会化で、ドア・ツー・ドアの魅力を持つバス交通に再び人気が集まりつつある。例えば、コミュニティバスの隆盛はその人気を表象している。そうした人気回復の中、筆者が調査したところ、バス車内では床面を起因とする事故が多発している。現行の交通バリアフリー法では、バス車内の床材について「滑り難い仕上げ」を定める旨が表記されているものの明確な数値の基準は無く、ユニバーサルな床材の研究開発が課題である。

滑りにくい

「表」に東京工業大学床性能研究会の「滑り抵抗値(CSR)の測定試験結果」を示す。滑り抵抗値が大きいほど高防汚性である。乾燥・水散布・水とダスト散布・油散布・石鹸散布の全状態で、アベイラスの高防汚性が実証されている。一方、既存のビニル系床材に比べベヒッカーS硬度(金属や鉱物での表面硬度)の高さを示す指標がアベイラスは100以上と大変高い。この結果から、これをバス車内に敷設して併も、高水準の表面硬度で経

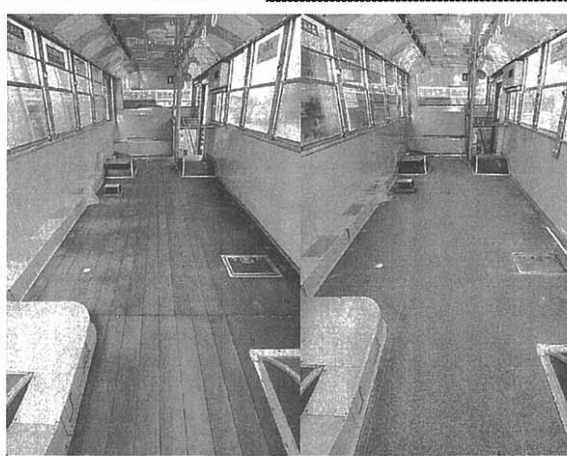
年での劣化が少なく、新規敷設時の高い滑り抵抗値(CSR)の長期的な維持が可能と判断できる。

またこの床材は、社団法人日本自動車工業(JAA)の「燃焼性試験」でも難燃性の上位である。従前のバス用床材に比べて優位な地位を占めている。アベイラスは、高防汚性の推進、天然石英石の利用ではユニバーサルデザインではユニバーサルデザインの推進、天然石英石の利用ではユニバーサルデザインの推進に寄与し、バス事業者の二大問題の解決に貢献できる素材である。

当グループでは、山梨交

新時代の交通にふさわしい

バス床材



アベイラスを敷設した山梨交通C599車の車内 (左=敷設前・右=敷設後)

慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科
講師(特別研究教員)
西山 敏樹

「履物との相性の評価」であるが、既製品に比べてアベイラスが「大変良い」「やや良い」を合わせると、有効回答者の七七％が従来品よりも相性が良いと評価している。石英石を素材にしてあるが、多くの利用者が抵抗なく受け入れる床材であることがわかる。

高い評価

最も重要な「滑り具合の評価」であるが、有効回答者の七七％強が従来品に比べて「防汚性がちょうど良い」と評価している。「もう少しならぬか」と欲し「い」まで含めると、実に八五％強がアベイラス敷設で防汚性が上がったと評価している計算になる。床性能事業者としての試用の評価を質問している。結果、アベイラスの防汚性については、車内での敷設実験で十分有効性が感じられたと高い性能が際立つ結果になっている。

特に、降雨・降雪時には高い性能が発揮されて従来品では防止しきれない油污や洗剤の残りによる滑りにも有効、との見解を得て

不安を解消

今回の質問紙は、「従前のバス車内床材に対する評価」「履物との相性の評価」「滑り具合の評価」等推進が重要な事業課題と読み取れる。

は、三日間で合計三百四十人(全利用者の九五％)にわたる乗客の戸惑いや苦情等もなく、モニターバスの木床の車内を明るくすることができ、採用可能性が広がるとの見解も得ている。

高い防汚性能のために清掃スタッフの使用が来ない点、従来品に比べ重く燃費の悪化が懸念される点など、若干の課題の指摘もあったが、性能自体は総合的に満足のものであったという。

より安全に

当チームでは、研究の幅を広げてバス交通のみならず、交通環境全般の安全性の向上に寄与したいと考えている。

この研究の詳細な成果については、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)で二〇〇五年九月十五日から九月十七日にかけて開催されるヒューマンインタフェースシンポジウム2005(主催:ヒューマンインタフェース学会)で、アベイラスのデモンストレーションを含め発表する予定である。本研究に関するご連絡は、三池工業アベイラス営業部(電話045(812)6833)か、財団法人地域開発研究所研究部(電話03(5226)0181)までお願いしたい。